

事業番号	事務事業名		けん玉ワールドカップ開催負担金				所管課名	産業部産業振興課	所属長名	原田 哲哉		
	方向性	3	資源を活かす				係・グループ名	産業企画係				
	重点施策	3	地域資源の活用を図る				根拠法令等	廿日市市産業振興基本条例、廿日市市産業振興ビジョン				
	施策方針	2	多様な地域資源のブランド化				基本事業					
予算科目	会計	01	款	06	項	01	目	02	事業1	事業2	経・臨	予算上の事業名
	一般会計		商工費		商工費		商工業振興費		008	53	臨	けん玉普及振興事業(政策)

1 事務事業の概要

①事業期間	②事業内容(事業概要を簡潔に記載。期間限定複数年度は全体の事業計画を記載)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
☒ 単年度繰返し ☐ 期間限定複数年度 (年度～ 年度) ☐ 単年度のみ	国内外に「けん玉発祥の地 はつかいち」をアピールするため、市内外の関係団体や事業者が一体となり、けん玉ワールドカップを共催した。令和2、3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインで実施。令和4年度以降は、サンチェリーで開催するとともにオンラインでの開催も行うハイブリッド方式で実施している。	けん玉ワールドカップはけん玉の普及・促進を図るため、市内外の事業者や関連団体が連携し、平成26年から開催している。

2 事務事業の対象・意図・活動・成果指標

主な活動内容	活動指標(活動の規模)	単位	区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度
・けん玉ワールドカップの開催	→ ア けん玉ワールドカップ大会開催数	回	目標 実績	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1
	→ イ		目標 実績					
	→ ウ		目標 実績					
対象(誰、何を対象にしているのか)	対象指標(対象の規模)	単位	区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度
・市民及び市外の人	→ ア けん玉ワールドカップ大会参加者数	人	見込 実績	400 725	700 875	700 948	1,000 1,000	1,000 1,000
	→ イ けん玉ワールドカップ大会参加国数	国	見込 実績	16 13	16 17	16 16	16 16	16 16
	→ ウ		見込 実績					
意図(対象をどのような状態にしたいのか)	成果指標(意図の達成度)	単位	区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度
・けん玉ワールドカップへの参加を通じて、けん玉に対する関心を高める ・市外から人を呼び込む(外国人含む)	→ ア けん玉ワールドカップ大会来場者数 (R2、R3はオンライン開催のため再生数)	人(回)	目標 実績	3,000 3,038	3,300 26,000	3,300 28,000	30,000 30,000	30,000 30,000
	→ イ けん玉ワールドカップ海外選手参加数	人	目標 実績	80 35	80 66	80 91	80 80	80 80
	→ ウ		目標 実績					
結果(結びつく施策の意図は何か)	施策の成果指標	単位	区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度
技術が継承され、認知度が向上する	→ ア 地域産業資源(木製製品)について知っている市民の割合(市民アンケート)	%	目標 実績	47.0 71.8	72.0 72.3	73.0 71.6	73.0 73.0	73.0 73.0
	→ イ (R4から「木製製品(けん玉等)」に表記を変更)		目標 実績					

3 事務事業の予算・コスト概要

年度		令和3年度決算	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度決算	前年度比	令和7年度(予算)
事業費(A) (円)		2,000,000	3,000,000	4,000,000	4,000,000	0	4,000,000
財源内訳	国庫支出金					0	
	県支出金					0	
	市 債					0	
	その他特財					0	
	一般財源	2,000,000	3,000,000	4,000,000	4,000,000	0	4,000,000
業務延べ時間 (時間)		120	120	120	120	0	
人件費(B) (円)		526,000	511,000	524,000	532,000	8,000	0
トータルコスト(A+B)		2,526,000	3,511,000	4,524,000	4,532,000	8,000	4,000,000
主な支出項目			令和6年度(決算)		備考		
けん玉ワールドカップ開催負担金			4,000,000 円				
			円				
			円				
			円				

4 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか。開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか。	② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯	③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか。
けん玉ワールドカップの参加国数・参加者数は事業開始時よりも増加しており、引き続き本市が発祥の地である「けん玉」を地域資源として最大限活用し、地域活性化や事業者支援を図っていく必要がある。	けん玉ワールドカップについては、地域資源のPRを併せて行うため、隣接会場で「木のまちはつかいち」に関連したイベントを行うなど、創意工夫を図っている。コロナ禍の令和2年度及び令和3年度はオンラインでの開催を行った。令和4年度からは現地とオンラインのハイブリット形式での開催を続けており、入場者数はコロナ前と同等まで増加した。	けん玉ワールドカップの開催については、市内けん玉製造事業者を始め、宿泊事業者等の観光関連事業者を中心に継続希望の声がある。

5 事業評価(令和 6 年度決算の評価)

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は市の政策体系に結びついているか。意図することが結果に結びついているか。)		
	☐ 見直し余地がある ☒ 結びついている	理由 説明	けん玉ワールドカップの開催により、「けん玉発祥の地 つかいち」を国内外にPRするなど、産業振興ビジョンにおける「地域資源活用」等に資する事業である。
	② 市が関与する妥当性(この事業は市が行わなければならないものか。税金を投入して行うべき事業か。住民や地域民間等に任せることはできないか。)		
有効性 評価	☐ 見直し余地がある ☒ 妥当である	理由 説明	民間主体の実行委員会の一員として、この事業に関与し、地域資源であるけん玉を生かしたまちづくりを推進することは、行政の役割である。
	③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか。)		
	☐ 見直し余地がある ☒ 適切である	理由 説明	けん玉発祥の地を知ってもらおうという意図であるため適切である。国内・国外の選手が、けん玉に関心をもつ機会になっている。
効率性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか。成果を向上させる有効な手段はないか。何が原因で成果が向上しないのか。)		
	☐ 向上余地がある ☒ 目標水準に達している	理由 説明	令和4年度から、リアル+オンライン形式の開催することで選手数の増加及び認知度の向上に繋がっている。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は。目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか。)		
公平性 評価	☐ 影響がない ☒ 影響がある	理由 説明	けん玉発祥の地を国内外にPRできる貴重な大会であるとともに、市の産業振興施策のひとつである地域資源の活用にも資するものである。
	⑥ 類似事業との統合や連携による改善余地(類似事業(市の事業に限らない)はないか。類似事業との統合や連携によって成果をより向上させることはできないか。)		
	☐ 改善余地がある ☒ 改善余地がない	理由 説明	けん玉ワールドカップは、けん玉における日本で唯一の世界大会である。
公平性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか。)		
	☐ 削減余地がある ☒ 削減余地がない	理由 説明	けん玉ワールドカップは、官民協働による事業である。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか。)		
公平性 評価	☐ 削減余地がある ☒ 削減余地がない	理由 説明	イベント開催のノウハウをもつ団体が事務局となり、実行委員会形式で開催することで、民間活力を活用し、コスト削減が図られている。
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか。受益者負担は公平・公正となっているか。)		
	☐ 見直し余地がある ☒ 公平・公正である	理由 説明	本市の地域資源を活用することで、本市の知名度向上やシビックプライドの醸成につながる事が期待できる(市民全体の利益)。

6 事業評価の総括と今後の方向性

①上記の評価結果			②全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A	目的妥当性	☒ 適切 ☐ 見直しの余地有り	本市が発祥の地であるけん玉という地域資源を最大限活用することは、シティプロモーションや歴史・文化の継承・発信、事業者支援等の産業振興といった面から有効である。また、実行委員会形式により民間活力を積極的に活用している。																							
B	有効性	☒ 適切 ☐ 改善の余地有り																								
C	効率性	☒ 適切 ☐ 改善の余地有り																								
D	公平性	☒ 適切 ☐ 見直しの余地有り																								
③今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可			④改革改善案による成果・コストの期待効果																							
☐ 拡充 ☐ 現状維持 ☐ 目的再設定 ☒ 改善 ☐ 休止・廃止 ☐ 完了		今後の改革改善案 市内外の関係団体と連携し、新たな手法を取り入れながら、より効率的かつ効果的にけん玉の普及・促進を図っていく必要がある。さらに効果を高めるためにも、他の事業とも運動させながら取組を進めていく必要がある。 また、市民にけん玉文化をより浸透させることを目的に、W杯に合せて、市内小学生を対象としたミニ大会の開催を検討する。	<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td>△</td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td>×</td></tr></table> (廃止・休止、完了の場合は記入不要)					コスト			削減	維持	増加	成果	向上			○	維持			△	低下			×
		コスト																								
		削減	維持	増加																						
成果	向上			○																						
	維持			△																						
	低下			×																						
⑤改革改善案を実施する上で解決すべき課題			市内のけん玉人口を増やすことに繋げるためにも、市民を巻き込んでいける大会にしていける必要がある。 多くの方が廿日市市を訪れるため、けん玉商店街とも連携するなど会場以外の盛り上げ策も支援していきたい。																							